

豪雨災害 備えと早めの避難を

例年6月から10月にかけて、日本各地で台風や集中豪雨を原因とした災害により、多くの人命が失われています。こうしたいつ起こるか分からない風水害や、土砂災害による被害を最小限に抑えるためには「自分の身は自分で守る」自助の取り組みと的確な情報収集、早期の避難が何よりも重要です。市では、災害が発生する危険性が高まった場合に、起こりうる災害種別に対応した地域を示して、避難勧告などを発令します。また、いざという時に、自らの命を守る避難行動に役立つよう、『ハザードマップ』を作成しています。自分の住んでいる地域にはどのような危険があるのか、市が指定している避難場所はどこであるかなどを、家族や近所の方とあらかじめ確認・認識し、いざという時のために備えましょう。

企画防災課 佐藤 TEL 22-1378

平成23年9月の豪雨災害
(平和町)



「集中豪雨、気を付ける10力条」
備えと早めの避難を心がけましょう

1. 日頃から天気予報、気象情報に注意を払う
2. 水害時の指定緊急避難場所や避難経路、自宅周辺の危険箇所をあらかじめ確認しておく
3. 市から発令される避難情報に注意する
4. 豪雨時は不要不急の外出をしない
5. 危険箇所には近づかない
6. 身の危険を感じたらすぐ逃げる
道路のアンダーパスや地下道などは、急激に水が流れ込んだりするため危険です
7. 夜間の避難は危険
8. 浸水中の避難は危険
マンホールや側溝に転落する恐れがあります。また、浸水などにより屋外へ避難できない場合は、自宅などの2階以上へ緊急的な避難を検討しましょう
9. 車での避難が危ないときもある
10. 裏山の災害前兆現象に注意する
崖のひび割れ、湧水の濁り、山鳴り、コロコロと小石が落ちるなど



ハザードマップ



避難場所・避難所

※QRコードを読み込んでハザードマップや避難場所などを確認しましょう



多治見市自主防災組織支援事業 補助金制度

地域防災力の向上を目的とした活動に対し経費の一部を補助します。

施行期間 平成30年4月1日から5年間

補助対象 防災資機材や感震ブレーカー、家具転倒防止器具の購入に要する経費、防災講座・研修会などの開催に要する経費、防災訓練の実施に係る消耗品

※詳細はホームページをご覧ください

申問 企画防災課 小島 TEL 22-1378



水防訓練

災害に備え、土のうづくりを体験しましょう。

時 6月10日(日) 8:20~10:00

場 陶都大橋下流土岐川両岸堤防

※申込不要

※駐車場なし

問 道路河川課

伊藤(博)、加藤(達)

TEL 22-1279



防災行政無線が 聞き取りづらいときは

1.多治見市緊急メール

防災行政無線で放送した緊急情報を、携帯電話にメールでお知らせします。

登録方法

- ①携帯電話から「空メール」を送信します
- ②仮登録をします
- ③本登録用のメールを受信
- ④内容に従って本登録をする



2.FM放送・ケーブルテレビ

防災無線で放送した緊急情報は、FMPiPi (76.3MHz)やケーブルテレビ(おりべチャンネル)でも放送しています。

3.電話応答サービス

防災無線放送終了後、24時間以内であれば何度でも確認することができます。

フリーダイヤル 0120-311-714

※3回線ありますが、つながらないときは、しばらくしてから、おかけ直してください

土砂災害 前兆を感じたらすぐに避難!

土砂災害は豪雨災害と同時に発生する場合があります。平成29年7月の「九州北部豪雨」では土砂災害による被害により、多くの人命が失われました。岐阜

県の土砂災害警戒区域は、約15,000カ所もあります。迫り来る危険を知り、命を守る行動をとりましょう。

●避難のポイント

1. 早めに避難しましょう
2. 川や谷は絶対に渡らない
3. げげ下など、危険なところは避けましょう

土砂災害の前ぶれに注意 ~こんな前兆現象があったらすぐに避難~

土砂災害が起こる前には、前兆現象と呼ばれる前ぶれがみられることがあります。

前兆現象に気づいたときは、周りの人に知らせて、早く避難しましょう。

水がわき出る



小石が落ちてくる



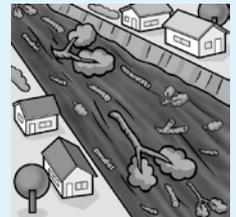
水位が下がる



山鳴りがする



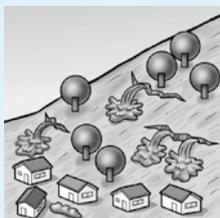
川がにごる



割れ目が見える



水がふき出す



ひび割れができる



井戸の水がにごる



©NPO法人
土砂災害防止広報
センター